

令和8年度第2回 川崎市地域デザイン会議を開催しました (外国人労働者の受入れに係る官民連携協議会準備会議②)

川崎市では、区が取り組んでいる地域課題対応事業の分野ごとにテーマを設定して、地域デザイン会議を実施しています。

令和9年4月の育成就労制度施行に向けた環境整備として、外国人労働者の日本語教育や定着支援等を実施する「官民連携協議会」の設立に向けて準備を進めており、今回は「職場のコミュニケーション」をテーマとして、市内に事業所を有する企業を対象としたミニセミナーとワークショップ形式の意見交換会を開催しました。

1 日 時 令和8年8月28日(金) 15時 00 分～17 時00分

2 場 所 川崎市役所10階 第1・2会議室

3 内 容

(1) ミニセミナー 「外国人材の定着と戦略化・職場コミュニケーション」

講師：(一財)日本国際協力センター 齊藤 牧 多文化共生事業部長 兼 JICE日本語・就労支援センター長

- ・日本の職場文化と外国人材受入れにおける留意点
- ・やさしい日本語を活用した職場コミュニケーション
- ・外国人従業員への具体的で分かりやすい指示方法
- ・相互理解・信頼関係の構築による職場環境づくり
- ・外国人材の定着に向けた生活面・地域活動への支援の重要性

ミニセミナーを受講した上で、自社の状況についてワークシートを使って課題等を整理し、ワークショップを行いました。



(2) ワークショップ「外国人従業員とのコミュニケーションについて」

自社で行っている工夫や、今後取り組みたいこと等について意見交換を行いました。



4 参加者 市内に事業所を有する企業11社・13名

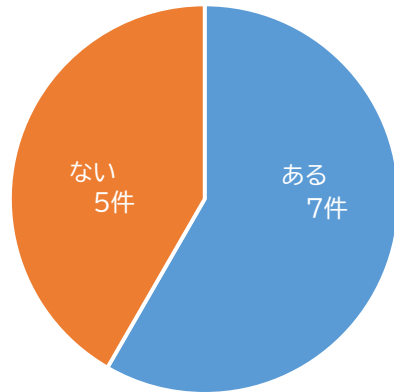
5 意見交換結果

- 同じ国の出身者で固まることで日本語を使う機会や水準が下がる場合があり、日本語学習をどう支えるかが課題
- 外国人社員に、日本語で自国を紹介してもらう時間を設けている。各国のメンバーの間の相互理解につながっていると思う。
- 母国語で挨拶するなど日本人側が歩み寄る姿勢を示すこと、口頭連絡だけでなくチャットに履歴を残すこと、などの他社の事例が参考になった。
- 外国人労働者が日本で働く上で課題に感じていることなどを聞いてみたい。
- 技能実習生の受入時に日本語教育が不十分であることが大きな問題。十分な支援がないままでは、受入側と本人の双方が困難を抱えるため、国や自治体の協力が必要ではないか。
- 続けられる日本語学習の制度や資格取得への支援・補助金などがあると良い。
- 日本語の勉強会や資格取得を支援することで、“日本でこれからもがんばっていく未来”がイメージできるようになる。
- やさしい日本語でのコミュニケーションについて、動画教材などを活用して日本人社員の教育も行っていきたい。
- 病院では、職員間だけでなく患者との関わりも不可欠であり、言葉の壁や文化の違いにより意思疎通が難しくなることがある。日本人特有の「察する」「雰囲気を読む」前提が伝わらず、患者の生活習慣を十分に理解できないこともあるため、細部まで含む指導方法が悩み。一方、外国人従業員は熱心に働いているので、定着を支援していきたい。
- 外国人労働者が主役となるイベントやコミュニティづくりを通じた心理的安全性の支援も重要ではないか。企業単独では難しいところを行政が支援してくれると良い。

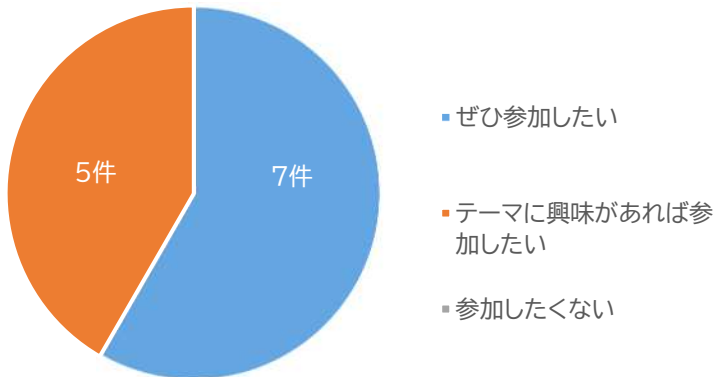


6 参加者アンケート(回答12件)

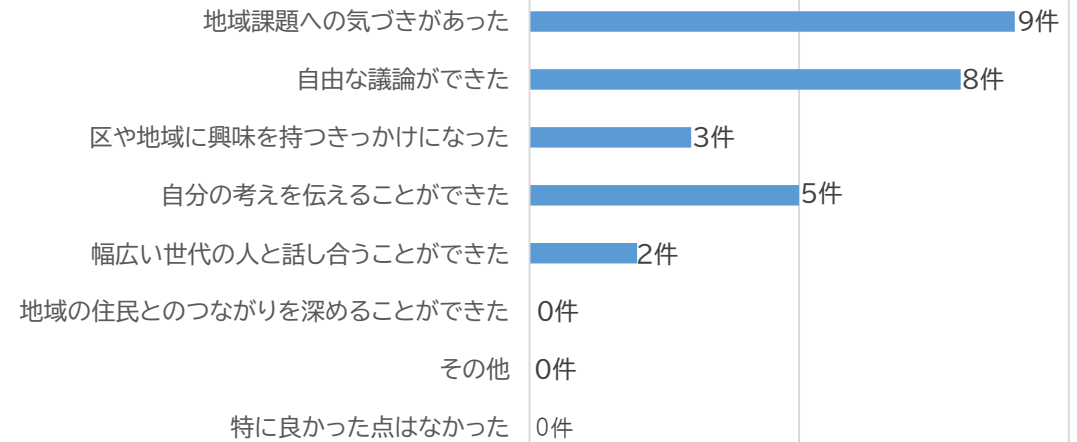
(1)これまで行政(国・県・市区町村等)が主催する会議に参加したことはありますか。



(2)同形式の会議(テーマは変更)が開催された場合、また参加したいですか。



(3)本日の地域デザイン会議に参加して良かった点はなんですか。【複数回答可】



7 今後の取組

いただいた御意見や御提案は、今後の施策検討に参考にいたします。